

好評です

「大門みきしエッセイ集」を読んで

エッセイ集に心のこもった感想が寄せられました。

大門さんは「びっくりぽん」でした 弁護士 前田貞夫(豊岡合同法律事務所)

今まで、大門みきしさんの国会質問をテレビや新聞で見聞きして、アベノミクス追及など、経済関連問題に強く、気魄に満ちた議員だと感心し、優等生だったのだろうと思っていました。

市田忠義さんが勇退された後を受けて、次の参議院選挙で近畿代表の候補者になられ、但馬の演説会で初めてお会いし、パンフレット『熱い心で』をいただき、お話を聞きました。

そして、大門さんが京都の出身だったこと、中学生のころはどうしようもない問題児だったこと、うどんをおごってくれた熱血先生の説教で立ち直ったこと、アルバイトをしていた生協で食堂のおばちゃんに「しんぶん赤旗」をすすめられ、自ら意気に感じて入党し、共産党の国会議員になった人と初めて知りました。

いわゆる優等生でなかったことは意外でしたが、むしろホッとする気持ちになり、滅多に経験できない生い立ちから、弱い者に寄り添った政治家になられ、国民が共感できる論戦を展開されるのだと納得しました。

7月の参院選は戦争法を廃止させ、アベ政治をやめさせる選挙です。アベノミクスは、マイナス金利を打ち出しても株価が下がる事態を迎え、2013年2月20日の予算委員会で、大門さんが異次元の金融緩和と格差拡大の二極化政策の危険性を訴えたとおりになってきました。

参院選では、郷里の代表になった大門さんを先頭とする、共産党の多数の代表を国会に送りたいと意気込んでいます。
(「兵庫民報」2016年3月13日付)



さりげなく深く静かに心に残る

「憲法九条の会・生駒」賛同人 長尾強志

ホッとしたいときには「大門みきしのエッセイ集」をおすすめします。短いお話ですが、どれも「どこかふんわり」「どこかあったか」「どこかおかしい」話ばかり。中学時代の「問題児」、小説家か劇作家になる夢の挫折、そんなノンポリ青年だった体験がさりりと語られています。優等生でなくて良かった。ジンワリと励まされますよ。趣味は絵本だといいます。国会論戦を見て、趣味は経済だと思っている人は驚きますよね。

ユダヤ人強制収容所に行く列車の窓から投げられ、村人に拾われ成長したエリカのお話『エリカ・奇跡の命』は「死に向かう命が、生に向かって投げられた命だった」と母親のおもいを理解する話で、「2時間の映画を見たような衝撃を受けた」と語られています。短い文章ですが、深い深い思いが大きく広がるようなお話です。原爆詩『生ましめんかな』を思い起こさせられました。さりげなく、深く、静かに心に残るお話ぶりです。相手の心に残る国会論戦を支えるユーモアとあったかさを感じるこのエッセイ集は絵本にすればいいようなお話ばかりです。(「奈良民報」16年3月13日付)

参院選勝利近畿ブロックニュース

TEL06(6975)9111 FAX06(6975)9115

比例予定候補・大門さん特集◎ 2016. 3. 15

大門さんのエッセイは近畿ブロック事務所が作成した「大門みきし論戦紹介&エッセイ」(A4サイズ)、「大門みきしエッセイ集」(B5サイズ)に収録。いずれも府県・地区委員会にあります。ぜひ、読んで党と大門さんへの支持を広げてください。